




令和 3 年度 施策評価表

施策	1801	道路網の整備	施策担当部等	都市整備部	部長	嶋原 純治
			施策担当課等	道路課	課長	内田 清和
施策の方針	交通の利便性と安全性を確保するため、国道34号の整備促進、幹線道路や生活道路の整備を計画的に進めるとともに、「木場スマートインターチェンジ（仮称）」の整備を行う。					
関連するSDGsのゴール	  					

【DO（実施）】

基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	R1目標値	R2目標値	R2年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	R1実績値	R2実績値	達成率	進捗率
① 都市計画道路の改良率	%	70.8	71.0 71.0	71.0 71.0	71.0 71.0	71.0 66.0	72.0 66.0	91.7%	91.7%
② 木場スマートインターチェンジ（仮称）の整備進捗率	%	28.0	90.0 65.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0%	100.0%
③ 市道の改良率	%	66.8	67.6 67.4	67.9 67.6	68.3 67.7	68.6 68.0	69.0 68.1	98.7%	98.7%
④									
⑤									

施策達成状況の説明

- ①都市計画道路の改良率
国道34号大村-諫早間（与崎-本野間）の新規事業化に伴い、対象となる路線延長が増となったため、R1実績値から減となっている。また、他路線については整備を進めているが完成していないため、改良実績値としては前年度と同じとなった。
- ②木場スマートインターチェンジ（仮称）の整備進捗率
スマートインターチェンジについては、平成30年3月18日に開通し、整備は完成した。
- ③市道の改良率
対象となる市道認定路線の延長増や経年劣化による維持管理費の増加に伴い、道路改良に必要な経費が減少傾向にあるため、改良実績値は前年度実績から微増となった。

施策経費

(単位:千円)		R2年度 決算	R3年度 予算	R4年度 見込	特記事項
内訳	事業費	765,272	633,364	1,183,775	
	国庫支出金	107,044	129,794	317,749	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	352,167	298,925	407,200	
	その他	18,536	13,222	15,223	
	一般財源	287,525	191,423	443,603	
	人件費	109,946	106,141	-	
フルコスト	875,218	739,505	-		

施策の概要

180101	国道34号の整備促進	国道34号大村-諫早間の4車線化については、慢性的な渋滞を解消するため、早期事業化を促進します。 また、市内中心部の拡幅についても、未整備区間の早期完成を促進します。
180102	幹線道路の整備	九州新幹線西九州ルートの開業等による交通需要の変化などを踏まえ、「池田沖田線」、「大村駅前原口線」など、都市計画道路の整備を進めます。
180103	木場スマートインターチェンジ（仮称）の整備	高速道路へのアクセス向上や幹線道路などの交通円滑化を図るため、木場スマートインターチェンジ（仮称）の整備を行います。あわせて、木場スマートインターチェンジ（仮称）から都市計画道路「久原池田線」までの市道整備を行います。
180104	生活道路の整備	市民生活における移動の利便性と安全性を確保するため、市道の計画的な整備とその他生活道路の維持管理等の促進に努めます。 また、長寿命化計画に基づき、道路施設の適切な維持管理に努めます。

【CHECK（評価）施策担当部長】

<p>施策を達成する上での問題点・課題</p>	<p>①都市計画道路の改良率 改良については、多額の予算及び用地が必要となるが、事業費の内示率減及び用地・補償提供者との交渉に多くの時間を要している状況であり、交付金等の予算確保と早期の用地取得が必要である。</p> <p>②木場スマートインターチェンジ（仮称）の整備進捗率 スマートインターチェンジについては、平成29年度末（3/18）に開通を迎えた。しかし、アクセス道路の一部が未改修となっているため、早期に工事に着手し、整備を完了する必要がある。</p> <p>③市道の改良率 市道の経年劣化による維持管理費の増加により、改良に必要な予算確保が厳しい状況であるため、改良については選択と集中により整備を進めていく必要がある。 また、現在も各地区から年間数か所の改良要望が上がっており、以前から要望を受けている未着手箇所では、地元から苦情が寄せられるなど、対応できていない状況であるため、さらなる予算の確保と早期の工事着手が必要である。</p>
-------------------------	--

【ACTION（改善・改革）】

<p>問題点・課題を踏まえた施策構成、事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方</p>	<p>①都市計画道路の改良率 今年度実施する都市計画道路概略設計において、実現性の高い最適なルートを検討し、今後は緊急性など整備優先度が高い路線の事業化を進める。 また、国道34号大村諫早拡幅では、事業が円滑に進むよう、地元調整など市も一体となって協力し、国土交通省と連携を図りながら事業進捗に努める。</p> <p>②木場スマートインターチェンジ（仮称）の整備進捗率 木場スマートインターチェンジのアクセス道路において、一部未改修部分の用地取得が完了したため、今年度改良工事を実施し事業完了となる。</p> <p>③市道の改良率 地元からの要望や維持管理費の増加により、改良の予算確保が難しい状況である。事業実施の優先順位の再検討などを行いながら、予算の効率的な執行に努め、市道改良率の向上につなげていく。</p>
--	--

令和4年度新規事業

事業名（仮称）	担当課	R4年度見込		対象・事業概要など
		事業費（千円）		
1				
2				
3				
4				
5				
		0		